［退職のご挨拶］

計算機サービス、赴くままに

東北大学情報部情報基盤課　高橋哲夫

この 3 月で定年を迎えました。私は昭和 44 年、東北大学に採用いただき、同年に発足した全国共同利用大型計算機センター業務掛に配属となりました。センターは発足から約 25 年間は片平キャンパスにありましたが、その後青葉山キャンパスに移転し、名称も情報シナジーセンター、サイバーサイエンスセンターと変更になりました。その間、私は計算機のオペレーション、画像処理システムの開発、利用者管理や共通利用番号制などを担当しました。

現在は、パソコン等をインターネットに接続すればサイバーサイエンスセンターのスーパーコンピュータ、並列コンピュータが、利用できるようになっています。昭和 50 年代前半までは、パソコンはなく、カード穿孔機によりプログラムやデータをパンチしたカードを中心としたバッチ処理と、端末機によるオンラインシステムの TSS(Time Sharing System)処理がありました。TSS 処理は東北大学が最も早い時期に力を入れた分野です。これらの処理を、センター技術職員が交替で操作・監視していました。

また、大型計算機センターとは別に、青葉山キャンパスには計算センターがありました。私はここに昭和 51 年～56 年までの間勤務しました。計算センターには、富士通の計算機 FACOM 230-38 が稼働しており、その役割としては①マークカード方式を用いた学生の教育実習、②Lisp、Pascal、Ratfor、Fordap などのコンパイラ・プリプロセッサーの研究開発、③事務電算化の準備、④統計パッケージソフトウェア（BMD、OSP、SAS 等）の導入、などがあり多方面から利用されていました。計算センター建物内の一部に、大型計算機センターの青葉山分室が設置され、バッチ処理（カードリーダ、ラインプリンタ、磁気テープ）、TSS 処理（TSS 端末）のサービスを行い、工学部、理学部等の多くの教員や学生の方々に活用いただきました。この青葉山分室はミリ波で片平ー青葉山間を接続していました。

最後に、昭和 40 年代後半頃のエピソードを紹介いたします。土曜日は、今でこそ休日となっていますが、半日勤務をしたものです。翌日は日曜日で休養日であり、なにか特別の意味があるように思いました。土曜の午後は、レストランなどで簡単な食事をした後に、映画を見たりしました。映画が終わり外に出ると 15 時を知らせるミュージックサイレン「荒城の月」が鳴っていて、帰りがてら「本屋」を覗くと、クリーニングしたての白衣（作業着）を着用した大型計算機センターの利用者と、よく顔をあわせたものです。また、白衣、作業着の洗濯物を主に取り扱うクリーニングコーナーが、学内の売店に設けられていたことも記憶しています。

乱文をお許しいただくとして擱筆といたします。先生方、事務部のみなさま、技術職員のみなさま、大変お世話になりました。みなさまのますますの発展をお祈りいたします。